

定植後の生育を良好にする花壇苗培養土

【背景・目的・成果】 花壇苗の品質は使用する培養土に大きく影響されます。そこで、定植後の生育を良好にする培養土を調査したところ、定植用の培養土は土壌酸度が7.0以下、電気伝導度が1.0以下が良く、生産用の培養土はピートモスにマサ土を20～40%混合すると良いことがわかりました。



様々な定植用培養土



生育が良かった培養土(ピオー)

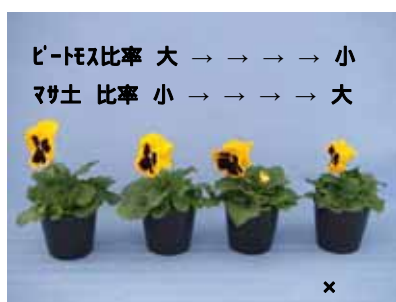


生育が悪かった培養土(ピオー)

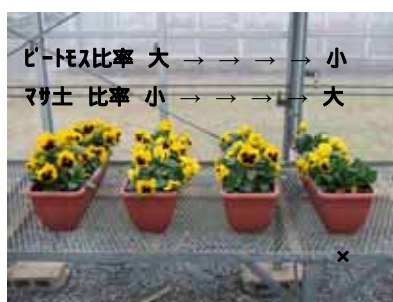
定植用の培養土では土壌酸度(pH)が7.0以下、電気伝導度(EC)が1.0以下の培養土であれば良好な生育を示しました。

培養土の包装袋を見て**土壌酸度**、**電気伝導度**の表示を確認しましょう。

生産用の培養土は主にピートモス、マサ土等を混合して作製されています。**ピートモス比率の高い苗**は生長が早く、**大きな苗**となり、定植後の生育も**旺盛**となりますが、販売段階では徒長しやすく、萎れやすい苗になります。培養土に**20～40%ほどマサ土を入れると徒長しにくく、萎れにくい苗**ができます。



草姿への影響(パンジー)



定植後の様子(パンジー)



萎れ程度への影響(ニチニチソウ)

【技術の活用】 上記の混合比率は兵庫県花壇苗標準培養土(ピートモス65%、マサ土25%)に反映され、兵庫の花として販売されています。